



<巻頭言>人間関係学科の新たな門出に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 丸山, 高司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/1767

人間関係学科の新たな門出に寄せて

人文社会学部長 丸山高司

今回の学部改組によって、「人文社会学部」と「理学部」とからなる二学部体制が誕生しました。今年、本学が創立されてから七十五周年にあたっており、こうした節目の年に、本学の長年にわたる願いが達成されたことは、まことに喜ばしいことです。

この学部改組にともなって、人間関係学科も新しく生まれ変わることになりました。これまで、「社会学」「教育学」「心理学」という三つの専攻によって構成されていましたが、新に「人間学」と「スポーツ文化」という二つの専攻が設置され、いっそう充実した、しかも個性的な体制が実現しました。また、大学院「社会人間学」との連関も、さらに緊密になりました。これまでもまして活力に満ちた教育研究の場となることを確信しています。

人間関係学科の研究理念は、〈人間関係の重層的かつ構造的な把握、および人間関係の変動の解明〉ということにあります。この理念にたがわず、これまでも、多数の立派な研究成果が生まれてきており、『人間関係論集』においても、そのことがはっきり実証されています。人間関係学科の新たな門出とともに、この『論集』も装いを新たにしました。さらに活発で創造的な議論の場になることでしょう。

最近、大学を取り巻く状況は、大きく変化しつつあります。根本的な変革期であるといってもいいでしょう。これまでも、人間関係学科の先生方は、つねに時代を先取りしながら、教育研究体制の改善に取り組んでこられました。今日の激変の時代において、持ち前の革新的精神がその本領を発揮されることを願ってやみません。